

# 入間野小学校だより3月号(最終号) 令和5年3月1日(水)

狭山市北入曾980 TEL 04-2958-2718



～みんなが大切にされる学校～

校長 丸山 丁士

「**いるまの**」**「仲よくする子 考える子 やりぬく子」の育成**

卒業おめでとうございます！

## ～あなたは奇跡的&貴重な存在～

先日、北アルプスの麓に広がる信州・安曇野市からは、シベリアに向けて「コハクチョウの北帰行<sup>\*</sup>が始まった」という便りが届きました。少しずつ春の訪れを感じる弥生<sup>ついで</sup>朔日。「弥」には「いよいよ」の意味があり、「草木が弥(いや)生(お)ひ茂る月」…冬の間眠っていた花や木がいよいよ一斉に芽吹いてくる…そんな麗らかな月になるであろう期待感とともに、気がつけば6年生の卒業まで、あと残り(授業日にして)わずか16日しかないという寂寥感も覚える、なんともアンビバレントな気持ちになる年度最終月を迎えました。



※北帰行(ほっきこう)…温暖な地域で越冬した渡り鳥が、北の繁殖地(子育てをする場所)に移動すること。

6年生が入間野小に入学した当時は、陸上の男子100メートルで、桐生祥秀がついに10秒の壁を突破する9秒98を記録したり、大坂なおみがテニスの全英オープンで、史上最強の呼び声高いあのセリーナ・ウィリアムズを破り優勝、四大大会で日本初の快挙を達成したり、さらには米大リーグで大谷翔平が新人王を獲得、「ペーブ・ルースの再来」と全米の話題をさらったりと、冬季オリンピック平昌(ピョンチャン)大会での羽生結弦の連覇とも相まって、スポーツ選手の大活躍に日本中が大いに沸いていました。

あれから6年…。

「みんなが入学した頃のことを覚えている？」と、廊下や教室にいる6年生数人に聞いてみたところ、ほとんどの子が「…」。「たしか、“ほっぺちゃん”が流行ってました！」と盛り上がる女子たちもいました。

さらに、「小学校生活の中で一番印象に残っていることは？」と聞くと、圧倒的に「修学旅行！」。中には、次のような答えもありました。「入学式の日のことです。違う幼稚園や保育園から来た子と初めて会って、ドキドキしたのを覚えています。」「どの学年でもクラスが楽しかったことです！」

最後「この6年間、長かった？短かった？」の質問には、だれもが皆「短かったです！」と即答でした。

いきなり質問されて戸惑った表情を浮かべなが

らも、過ぎ去った日々を懐かしみ慈しむように瞳を輝かせる6年生たちの話を聞きながら、私はふと昔読んだ本を思い出しました。ある有名な日本人ジャーナリストが書いたものですが、その本の中で著者は、世界で活躍する偉人たちに「日本の若者がいま大切にすべきことは？」と尋ねています。時間も場所も異なるインタビューだったにもかかわらず、返ってきた言葉は奇しくも全く同じでした。それは「時間を大切に人生を過ごすこと」だったのです。

私たちは悠久の宇宙の中で生を享けました。宇宙138億年の歴史をその始まりを1月1日として一年間のカレンダーにすると、地球の誕生は9月初旬。地球上に最初の人間が誕生したのは、なんと大晦日12月31日の夜8時頃になります(アメリカの天文学者カール・セーガン博士による)。

そんな宇宙の一部である私たちは、生きていること自体が奇跡的かつ貴重なのです。

卒業生、そして入間野小の皆さん、これからも「命」と「時間」を大切に、自分らしく人生を歩んでください。いつまでも、応援しています。

最後になりますが、保護者の皆様のご理解とご協力により、つつがなく学年末を迎えることができましたことに、本校教職員一同心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。ありがとうございました。